

第8回（平成10年度）BELCA賞 ロングライフ部門 表彰作品

東海銀行本店

所在地 名古屋市中区錦3-21-24
用途 銀行本店
竣工 1972年
所有者 株式会社 東海銀行
設計者 株式会社日建設計
施工者 株式会社 大林組
維持管理者 株式会社 東海銀行
東海ファシリティサービス株式会社



名古屋の中心街、目抜き通りである錦通り、広小路通りに面して、高度成長期の昭和35年に竣工、中京経済界を担ってきた東海銀行の本店は、築後約40年経過しているにもかかわらず周辺の環境と良く調和し、プロポーションの良い縦長の窓がリズムカルに配列している明るい壁面は、歴史的な町並みの形成を特長づけていて、親しみのある好感が持てる建物である。昭和47年には錦通りに面して、事務部門の業務拡大とコンピューター化に伴い増築をしているが、既存部分の本店との調和を計り、都心の銀行本店として、いい意味でのオーソドックスさを保ち、落ち着きと重厚さを表現しつつ、地域に根づいた建物としての存在感がある。

外壁は低層部石貼、高層部擬石貼であるが、当時の日本の施工技術としては極めて高度な加工精度、取り付け精度が確保され更に、金属工事の精度の良さもあって、窓まわりの装飾金物との取り合いが職人技であり、誠実な施工技術が外壁を長持ちさせた要因となっている。

サッシュは二重サッシュを採用、防火・防犯、遮音・省エネルギーを当時から考慮して、居住環境の向上を計り、更に、二重サッシュの室内側は開閉式として、清掃やガラス破損時の取り替え等、メンテナンス上の配慮もうかがえ、良好な状態を保っている。

築40年近くでありながら、室内の空調設備は部分追加程度の改修であり、設備面では常駐管理を委託し、本館新築15年経過以後より老朽設備機器の更新を行っているが、原則的に予防保全体制で管理し、大規模改修を行わなくても機能的には満足されている。その理由のひとつとして外壁窓を二重とし、熱負荷の軽減が当初より計られていた点があげられる。空調方式は当時セントラル方式が主流の中、各階各所の分散型各階空調方式を採用し、現在にも通用する方式である。ロングライフの大きな要素としての「陳腐化しないシステム」を実践している。更に、新築時より空調設備に電気集塵装置を導入、更新も完了し、電源設備も無停電UPS、自家発電機を設置、照明器具も更新、LANの導入も完了し、インテリジェント化対応、OAフロアの導入等、内部環境の改善に積極的に取り組み、整備に努めている。

維持保全においては、所有者、設計者、施工者、管理者が一体となって、「予防保全」を前提に、維持保全計画・改修・更新等、計画的に行っており、日常の点検、定期点検も所有のマニュアルに基づいて、建物の現状・将来性・コスト等を踏まえて、きめ細かい検討がなされ、実践に移されている。建設省、学会、BELCAが提唱している「予防保全」に対する意識を早い時期から採り入れ、積極的に実行に移している事を高く評価したい。